

『先哲に学ぶ人間学』9月から、いよいよ最終講義がスタートします！

『先哲に学ぶ人間学』は、20数年前に野洲の事務所から、10名程で始まりました。

それが、10余年を経て京都でも開催させていただくことになりました。

滋賀の田舎侍が、京の都に出て、人の道を説く？無礼者！と、一太刀の下に切り捨てられるのではないかと心配しましたが、幸いにも受け入れて下さいました。

更にその後、彦根・長浜・和歌山・名古屋・金沢と広がり、今では、毎月8カ所で開催させていただいています。

多くの方のご支援とご協力の下、毎月、延べ200名以上の受講生の皆様が熱心に学んで下さっています。

さて、どんなことにも、始めがあれば、終わりがあります。

2017年9月から、2020年8月の、3年間を以て、全講義を終了します。

レジメは、100ページで400項目、四書五経から、宋名臣言行録・貞観政要・葉根譚・そして、佐藤一斎・二宮尊徳・吉田松陰・安岡正篤・中村天風・森信三・平澤興・本多静六・渋沢栄一等々、人生に役立つものは、食欲に網羅しています。

ある人は、時代の変化の早い現代に、そんな古いものが役立つのか？

スピードこそが勝負で、情報は瞬時に判る時代に、古典とは？という方がおられます。そこで、こう質問します。確かに、孔子は2500年前の人です。しかし、孔子以降、孔子を超える人物が出ていませんね。新旧の問題ではありませんね、と。

物事には「不易」と「流行」があります。学びには、「人間学」と「時務学」があります。技術や、ノウハウ、道具は、日々更新されています。これを無視すれば、経営は一日たりとも続けられません。毎月、400余社の中小企業の経営を拝見している、会計人として、その事は痛いほどわかります。

社長の悩みの大半は、人の問題です。その問題に、既に答えが出尽くしているとしたら、わざわざ遠回りして無駄な時間を使う必要があるでしょうか。

漠然たる不安が社長の行動を阻害しているとしたら、組織のトップが熱く燃えられないとしたら、それこそ、もったいない事です。迂闊なことです。

人生、二度無し。これからの人生の中で、今日が一番若い日です。過去は変えられませんが、将来は変えられます。他人は変えられませんが、自分を変えられます。

社長、是非、この最後のチャンスに『先哲に学ぶ人間学』ご参加下さい。8カ所の会場で多くの仲間が、社長のお越しを待っています。

私も、最終回を、今までにも増して全力投球・完全燃焼して参ります。



今月のポイント

「学ぶに如かざるなり」

論語衛霊公第15